



～過去・現在・そして未来へ～

今年は7/18㊥・19㊦

八丈島夏まつりにかける想い

今年で54回を迎える八丈島夏まつり(7月18日(土)、19日(日)開催)の淵源をたどり、世代を超えて引き継がれている八丈島の夏の風物詩としての魅力とこれからの未来について雨森孝夫さん(八丈島夏まつり本部部会長)と浅沼隆章さん(八丈島夏まつり本部副部会長)にお話を伺いました。

第2回八丈島夏まつりの様子

そもそも八丈島夏まつりはどのようなきっかけで始まったのでしょうか？

(浅沼さん) 地域還元のための還元祭として始まりしました。当時は商工会の会員事業者さんからの寄付で運営していて、いつもご利用頂いているお客様へ感謝の気持ちで還元できるように商品も低価格での提供をお願いしていました。

当初から町役場や八丈支庁、観光協会、警察、婦人会とも実行委員会を組織し協力して開催していましたが、「流人まつり」が終わるタイミングで名前が「商工まつり」から「八丈島夏まつり」に変わりました。

当初の夏まつりの雰囲気はどのようなものでしたか？

(浅沼さん) 第1回は現在町立病院がある場所で開催されました。もともとは中道グラウンドの場所でした。

第2回目からは、現在役場の庁舎のある場所に商工会館があったので、その前の道路まで使って開催していました。準備期間も含めると1週間以上も道路を封鎖していましたが、道の両側にバーっとお店が坂の上まで並んでいて圧巻でした。

当初は今のよう敷地が整備されておらず、仕事を休んで、草刈りから始めて2ヶ月くらいボランティアで準備していたので自分の事業が後回しになってしまいうくらい大変でした。今の「多目的ホールおじゃれ」のようなステージもないので、手作りで舞台をつくるため、草刈り後にみんなでステージを組んでいました。

我々の親世代たちは祭りにかかわる商工会青年部員が60人くらい居ましたが、今は3～4人の中心メンバーで取りまとめて、大がかりな作業の時は人を集めて作業をしています。

印象に残っている出来事やエピソードはありますか？

(浅沼さん) 当時は商工会青年部で集まって作業していました。みんなで一緒になって準備して夜になると先輩達が飲みに来て行ってくれて、ご馳走してくれたりしました。親たちには「仕事もせずに飲み歩いている」と思われた辛い時期もありました(笑)。

でも、そうやって自分の事業では出会わない人たちと知り合ったり、準備を通して色んなことを教わって仲良くなって。それがまた自分の事業(本業)にも役に立ったし事業の幅が広がったりもしました。

自分たちで0から作る経験はなかなかできない。そんな先輩たちとの繋がりが、後々助けてもらえるきっかけになったりする。そんな繋がりができたことが嬉しかったです。

私も子どもの時に夏祭りはワクワクしましたが、みなさんが子どもの時の八丈島夏まつりにはどんな思い出がありますか？

(雨森さん) 夜に自転車を漕いで出かけて、親からお小遣いをもらって友人と遊べるというのは子どもながらにワクワクしました。

親も商工会員で夏まつりの準備をしていたから、その準備中の誰もいないところで遊ばせてもらったのも、特別な感じがして良い思い出ですね。

昔は自分たちで八丈島中の花火をかき集めて打ち上げたり、ひよこ、亀なども連れて帰れる催し物があったり、そばの早食い競争があったり、くさや業者が焼き鳥屋さんをしたり、子どもたちのために映画を上映したり。こういったものは時代とともに段々と制限が増えて出来なくなっちゃったけど、子どもたちの楽しめる場としてこの夏まつりを守りたいと思っています。



白熱するそば喰い競争(第20回八丈島夏まつり)

夏まつりを開催し続けるにあたって、苦労された点や今だから話せる打ち明け話がありますか？

(浅沼さん) 昔の先輩たちが商工会青年部で意見を出し合って、「八丈富士に電飾で8の字を灯してみよう!」という話になってみんなで八丈富士に登ったら雲で何も見えなくなってしまって、下山するのもやっとの思いだった(笑)というエピソードを聞いたことはあります。

早押しクイズ大会とかもわざわざ早押しボタンを電気屋さんに作ってもらってまで開催したけど、あんまり人が集まらなかった。でも、そういうのも今となれば良い思い出です(笑)。

毎年開催される夏まつりですが、時代を超えても変わらずに大切にされている事がありますか？またどのような想いで開催されていますか？

(雨森さん) まずは子どもたちが楽しめる場としてこれからも続いていって欲しいです。商工会メンバーとしても人と人との繋がりを大事に出来る場として活用してほしい。元々が「還元」という気持ちで始まったので、安価での商品のお願いは毎年していますが、物価高騰の中で苦しい状況でもあります。

子どもから大人まで誰でも楽しめるのが夏祭りだとは思いますが、より多くの方に楽しんでもらえるように工夫している点などはありますか？

(浅沼さん) 子どもも大人も舞台を目的に来場される方が多いので、どの世代も楽しめる内容を毎年考えています。これが結構難しくて子どもに振りすぎるとご年配の方が楽しめなかったり、その逆もありますが、毎年アンケートを参考に考えています。芸能人のリクエストは中々ハードルが高いですが(笑)。

編集後記

お二人のお話を伺っていて、古き良き時代の「情熱」を感じました。良くも悪くも人と人との距離が近く、大変なことも多いけど楽しいことも多かった時代。人手不足は八丈島だけに留まらず日本社会全体が直面する課題ですが、だからこそ老若男女、島民・移住者に関わらず今一度みんなで一致団結して「八丈島を盛り上げたい」そんな想いとお話を聞いていて伝わってきました。そんなお二人を見ていて「あの頃あんな事やってたな」と語り合える仲間がいる事が羨ましくも感じました。これからもみんなが楽しみに待つ八丈島夏まつりが永く続いて行くことを願っています。

毎年たくさんの方がご尽力くださっていると思います。主催者として「今年もこういうおまつりにしましょう!」というエールをお願いします。

(浅沼さん) 実は本当に人手が足りていなくて正直、毎年運営が厳しい状況です。ですが商工会の会員事業者の皆さんに少しずつご協力していただければ継続していけます! ボランティア、アルバイトも毎年募集していますが、なかなか人が集まらない状況です。なので、少しずつ皆様に協力していただき、これからも続いていく八丈島夏まつりにしていきたいです。これを機に商工会加入、出店も大歓迎です! みんなで八丈島を盛り上げていきましょう! よろしくをお願いします。

これから先八丈島夏まつりがどのようなかたちで島民の方、また移住者や観光客の方に親しまれていって欲しいですか？

(浅沼さん) 来場者の9割は島民なので、還元の意もあり、島民の方に親しまれるものを継続したい思いで、好評なものを残してきたつもりです。人手不足もあって運営人員を極力減らしながらも、規模は昔と比べても遜色ない程度を維持していますが、これからは新しい人たちにもどんどん入ってきてほしいです。新しい世代にもっと良くしていった欲しいし、継続できる新しい形を築いていった欲しいです。

ご来場の方にワンポイントアドバイスはありますか？

(雨森さん) 開始時間が早いので、熱中症対策を忘れずに! それと、駐車場が限られているので、乗合で目的の舞台時間より早め早めのご来場をオススメします。アンケートはすべて確認させていただいていますので、ぜひご協力をお願いします!

今年も八丈島夏まつりを楽しみにしている皆さん(特に子ども達へ)に一言お願いします。

(雨森さん) 今年は「復興」がテーマになっています。それを祈念して子どもたちのスーパーヒーローや島出身アーティスト達も出演予定です! 盛り上がること間違いなしなのでぜひ楽しんでいただければ!



雨森さん

浅沼さん